施工説明書

TOTO

手すり　樹脂被覆タイプ／ステンレスタイプ　T112型・T113型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1-1 安全上の注意（安全のために必ずお守りください）

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

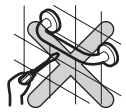
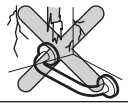
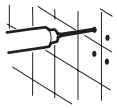
●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表　示	意　味
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容をを示しています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

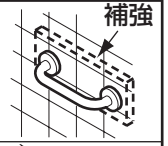
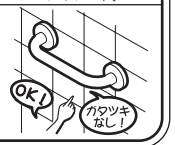
⃠	⃠は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
❗	❗は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

⚠ 警　告

分解禁止	**修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない** 手すりの破損や脱落により、けがをするおそれがあります。	
必ず実行	**必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける** 土壁・石こうボード壁などの強度のない壁に直接取り付けると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	浴室などの水まわりに使用される際は、取り付ける穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布する シーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	必ず当社指定の固定金具を使用する 当社指定の固定金具を使用しないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	

1-2

⚠ 警　告

必ず実行	**各下地の取付方法をよく読み、十分な下地の厚さ、および補強があることを確認する** 下地に十分な厚み・補強がないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	取り付け完了後、手すりにガタツキがないことを確認する 手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	

2-1 取り付け前に

取り付け前の注意

●手すりを取り付ける壁に十分な強度があることを確認してください。

●手すりは屋外や水没する場所には取り付けないでください。
変色や変形のおそれがあります。

●光電センサー付き商品と手すりを組み合わせる場合には、センサーが手すりを感知しないように取り付けてください。
なお、光電センサー付き商品と手すり取付位置は光電センサー付き商品の説明書または設計施工資料集などを参照してください。

●取付方法は建物の構造に応じて適切な方法を選んでください。
なお、手すりは、手すり本体と壁(床)の固定金具が別々の品番になっていますので、壁の構造に応じて別途固定金具をご注文ください。
固定金具必要セット数は「3 固定金具(別売品)」を参照してください。
※掲載以外の取付方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

●手すりの取付位置は設計施工資料集などを参照してください。

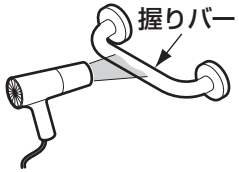
2-2

樹脂被覆タイプの握りバーについて

●樹脂被覆タイプの握りバー表面に傷を入れると補修できませんので、取り扱いには注意してください。

●樹脂被覆タイプの握りバー表面は軟質樹脂のため、工具などが握りバー表面に当たると、握りバー表面にへこみが発生することがあります。その場合は下記要領にて修正してください。

〈修正方法〉 ヘアドライヤーにてへこみ部分に2～3分程度熱風を当てる。
※へこみの程度により熱風を当てる時間が変わりますので、へこみの復元状態を見ながら修正してください。



注 意

樹脂被覆タイプの握りバー表面の軟質樹脂に熱風を当てすぎないようにしてください。軟質樹脂部が焼けたり、変色したりすることがあります。

3-1 固定金具(別売品)

〈固定金具一覧表〉

品　番	取付方法	形　状	セット内訳
T110D11	取付プレート	100×100×t6 M6 φ8	固定箇所：1カ所分 ・取付プレート/1枚
T110D12	取付プレート	φ8 M6 t6 260 160 100	固定箇所：上下2カ所分 ・取付プレート/1枚
T110D41	溶接セット	M6×60	固定箇所：1カ所分 ・長ねじボルト/4本 ・座金/4個 ・ナット/8個
T110D42	埋め込みセット	M6×60 M6×50	固定箇所：1カ所分 ・長ねじボルト/4本 ・座金/4個・ナット/8個 ・アンカーボルト/4本
T110D43	挟み込みセット	M6×150	固定箇所：1カ所分 ・長ねじボルト/4本 ・座金/8個 ・ナット/12個

3-2

〈固定金具一覧表〉

品　番	取付方法	形　状	セット内訳
T110D37	軽量鉄骨用取付金具	t=3.2 150 250 φ4×16	固定箇所：1カ所分 ・軽量鉄骨用取付金具/1枚 ・ドリルねじ/10本
T110D36	軽量鉄骨用取付金具	t=3.2 150 340 150 250 φ4×16	固定箇所：上下2カ所分 ・軽量鉄骨用取付金具/1枚 ・ドリルねじ/10本
T110D44	ボルトセット	M6×50	固定箇所：1カ所分 ・ボルト/4本 ・座金/4個
T110D45	ドリルねじセット	φ5×45	固定箇所：1カ所分 ・ドリルねじ/4本 ・座金/4個
T110D46	メカナットセット	M6 M6×50	固定箇所：1カ所分 ・メカナット/4本 ・ボルト/4本 ・座金/4個
T110D3R (L=85) T110D18R (L=105)	アンカーボルト	L M6	固定箇所：1カ所分 ・アンカーボルト/4本
T110D15 (L=70) T110D16 (L=50) T110D23 (L=33)	コーチねじ	L φ6	固定箇所：1カ所分 ・コーチねじ/4本 ・座金/4個
T110D22R	挟み込み金具 (厚さ40mm トイレブース後付け用)	外側のボルト穴を使用 パイプ φ13 M6×55	固定箇所：1カ所分 ・取付プレート/1枚 ・ボルト・パイプ/各4個 ・座金・ナット/各4個
T110D26	樹脂プラグ	φ8×40	固定箇所：5カ所分 ・樹脂プラグ/20個
T110D34 (L=50) T110D35 (L=33)	ハンガーボルト固定	ハンガーボルト M6×11 φ6×L ナット 座金	固定箇所：1カ所分 ・ハンガーボルト/4本 ・座金・ナット/各4個

〈固定金具・現場調達部品必要個数一覧表〉

※ ●は現場調達部品です。パイプは金属製パイプ(φ13.8 t2)を示しています。工具店、ホームセンターなどでお買い求めください。なお、パイプの長さは壁の厚みを考慮してご用意ください。

注1：【GL工法の場合】GL厚50mm以下の場合のみ使用可能です。
注2：【コンクリートブロック下地の場合】コンクリートブロック裏面から壁仕上げ面までの厚みが 125mm 以下の場合のみ使用可能です。
注3：補強木の厚みについては「合板または補強木の厚みについて」をご参照ください。
注4：対応可能なトイレブースは厚み40mm、ペーパーハニカム、メラミンもしくはポリエステル化粧合板仕様相当です。
注5：トイレブースの厚み30mm以上の場合のみ使用可能です。
注6 ：T110D26（樹脂プラグ20個入り）は、ねじの本数に応じてご注文ください。ねじの本数は I 型の場合は 8 本、L 型の場合は 12 本です。
注7 ：中間支持部には、施工が簡単なハンガーボルトを使用してください。コーチねじを使用した場合、施工時にカバーを傷つけるおそれがあります。
注8 ：壁仕上げ面の厚みが15mm以下の場合は、T110D23も使用可能です。
注9 ：壁仕上げ面の厚みが15mm以下の場合は、T110D35も使用可能です。
注10：中間支持部には、ボルトを使用してください。ドリルねじを使用した場合、施工時にカバーを傷つけるおそれがあります。
注11：トイレブースの中に補強木を入れて取り付けてください。
注12：床固定用の固定金具はアンカーボルト固定（コンクリート床）の場合で示しています。床が木下地の場合は床固定用の T110D3R(アンカーボルト固定)を T110D15(コーチねじ固定)に変更してください。なお、木下地の場合は 60mm 以上の補強が必要です。

品名 ＼ 下地（取付方法）	コンクリート下地・GL工法（取付プレート埋め込み固定）注1	コンクリート下地（アンカーボルト固定）	コンクリート下地(プラグ固定)	木下地・コンクリートブロック下地（取付プレートはさみ込み固定）注2	木下地(コーチねじ固定）注3
① 多用途用手すりI型	T110D11×2、T110D42×2	T110D3R×2	T110D16×2、T110D26 注6	T110D11×2、T110D43×2	T110D16×2 注8
② 多用途用手すりL型	T110D11×3、T110D42×3	T110D3R×3	T110D16×2、T110D34×1 注7、T110D26 注6	T110D11×3、T110D43×3	T110D16×2注8、T110D34×1注7 注9
③ 腰掛便器用手すりL型（T112CL10・T113BL10は除く）	T110D11×3、T110D42×3	T110D3R×3	——	T110D11×3、T110D43×3	T110D15×3
④ 腰掛便器用手すりL型（T112CL10・T113BL10）	T110D11×3、T110D42×3	T110D3R×3	T110D16×2、T110D34×1 注7、T110D26 注6	T110D11×3、T110D43×3	T110D16×2注8、T110D34×1注7 注9
⑤ 腰掛便器用手すりP型（T112CP1・2、T113BP1・2）注12	T110D12×1、T110D42×2、T110D3R×1	T110D3R×3	——	T110D12×1、T110D43×2、T110D3R×1	T110D15×2、T110D3R×1
⑥ 腰掛便器用手すりP型（T112CP6・7）壁掛洗面器用手すり(T112CP11)	T110D12×1、T110D42×2	T110D3R×2	——	T110D12×1、T110D43×2	T110D15×2
⑦ 和風便器用手すり（T112CW1、T113BW1）	——	T110D3R×2	——	——	T110D15×2
⑧ 小便器用手すり（T112CU2、T113BU2）	T110D12×2、T110D42×4	T110D3R×4	——	T110D12×2、T110D43×4	T110D15×4
⑨ 壁掛洗面器用手すり（T112CP3、T113BP3）注12	T110D12×1、T110D42×2、T110D3R×1	T110D3R×3	——	T110D12×1、T110D43×2、T110D3R×1	T110D15×2、T110D3R×1
⑩ 壁掛洗面器用手すり（T112CP8）	T110D11×1、T110D12×1、T110D42×3	T110D3R×3	——	T110D11×1、T110D12×1、T110D43×3	T110D15×3
⑪ 浴室洗い場用手すりI型	T110D11×2、T110D42×2	T110D3R×2	——	T110D11×2、T110D43×2	T110D15×2

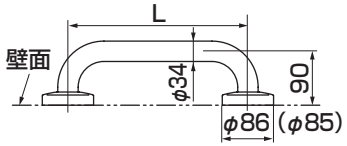
	GL工法 （アンカーボルト+パイプ使用固定）注1	軽量鉄骨下地（ボルト固定）	軽量鉄骨下地（ドリルねじ固定）	軽量鉄骨下地（メカナット固定）	軽量鉄骨下地 （取付プレート溶接固定）	トイレブース （挟み込み固定）注4	トイレブース （コーチねじ固定）注5
①	T110D18R×2、●パイプ×8	T110D37×2、T110D44×2	T110D37×2、T110D45×2	T110D37×2、T110D46×2	T110D11×2、T110D41×2	T110D22R×2	T110D23×2
②	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D37×3、T110D44×3	T110D37×3、T110D45×2、 T110D44×1 注10	T110D37×3、T110D46×3	T110D11×3、T110D41×3	T110D22R×3	T110D23×2 T110D35×1 注7
③	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D37×3、T110D44×3	T110D37×3、T110D45×3	T110D37×3、T110D46×3	T110D11×3、T110D41×3	—	—
④	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D37×3、T110D44×3	T110D37×3、T110D45×2、 T110D44×1 注10	T110D37×3、T110D46×3	T110D11×3、T110D41×3	T110D22R×3	T110D23×2 T110D35×1 注7
⑤	T110D18R×2、 T110D3R×1　●パイプ×8	T110D36×1、T110D44×2、 T110D3R×1	T110D36×1、T110D45×2、 T110D3R×1	T110D36×1、T110D46×2、 T110D3R×1	T110D12×1、T110D41×2、 T110D3R×1	—	—
⑥	T110D18R×2、●パイプ×8	T110D36×1、T110D44×2	T110D36×1、T110D45×2	T110D36×1、T110D46×2	T110D12×1、T110D41×2	—	—
⑦	—	—	—	—	—	—	—
⑧	T110D18R×4、●パイプ×16	T110D36×2、T110D44×4	T110D36×2、T110D45×4	T110D36×2、T110D46×4	T110D12×2、T110D41×4	—	—
⑨	T110D18R×2、 T110D3R×1　●パイプ×8	T110D36×1、T110D44×2、 T110D3R×1	T110D36×1、T110D45×2、 T110D3R×1	T110D36×1、T110D46×2、 T110D3R×1	T110D12×1、T110D41×2、 T110D3R×1	—	—
⑩	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D36×1、T110D37×1、 T110D44×3	T110D36×1、T110D37×1、 T110D45×3	T110D36×1、T110D37×1、 T110D46×3	T110D11×1、T110D12×1、 T110D41×3	—	—
⑪	T110D18R×2、●パイプ×8	T110D37×2、T110D44×2	T110D37×2、T110D45×2	T110D37×2、T110D46×2	T110D11×2、T110D41×2	—	—

4 完成図

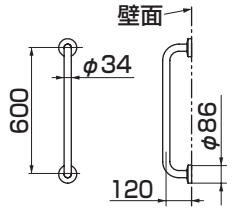
※図面は樹脂被覆タイプT112型、(　)寸法はステンレスタイプT113型の場合

多用途用Ｉ型

L(mm)	樹脂被覆	ステンレス
300	T112C3	T113B3
400	T112C4	T113B4
500	T112C5	T113B5
600	T112C6	T113B6
800	T112C8	T113B8
1000	T112C10	T113B10

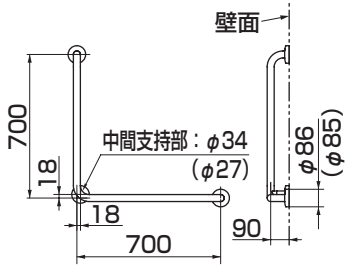


樹脂被覆
T112CM6



多用途用Ｌ型

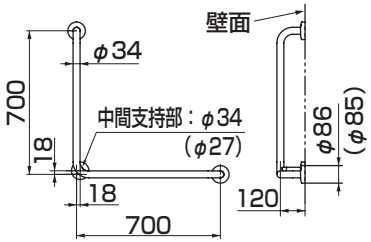
樹脂被覆	ステンレス
T112CL9	T113BL9



※T113BL9の場合
コーナー部のカバーはφ84

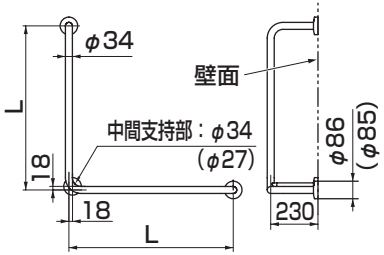
腰掛便器用Ｌ型

樹脂被覆	ステンレス
T112CL10	T113BL10



※T113BL10の場合
コーナー部のカバーはφ84

L(mm)	樹脂被覆	ステンレス
700	T112CL12	T113BL12
800	T112CL11	T113BL11

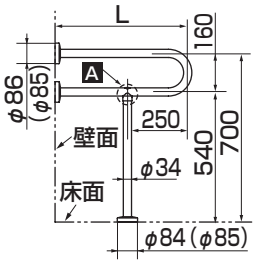


※T113BL11・12の場合
コーナー部のカバーはφ84

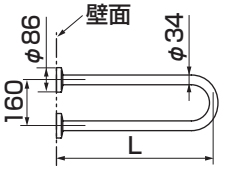
腰掛便器用P型

L(mm)	樹脂被覆
550	T112CP1
700	T112CP2

L(mm)	ステンレス
550	T113BP1
700	T113BP2

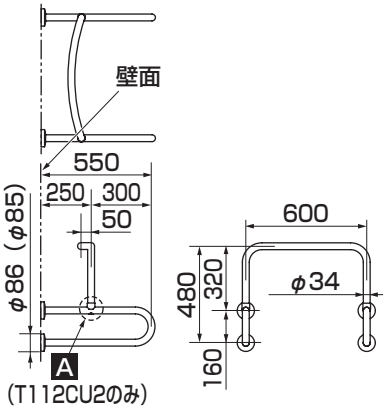


L(mm)	樹脂被覆
550	T112CP6
700	T112CP7



小便器用

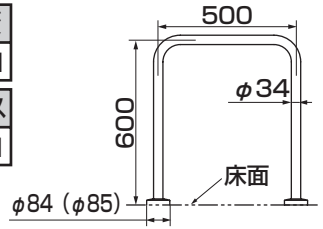
樹脂被覆	ステンレス
T112CU2	T113BU2



和風便器用

樹脂被覆
T112CW1

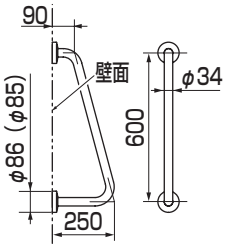
ステンレス
T113BW1



浴室洗い場用Ｉ型

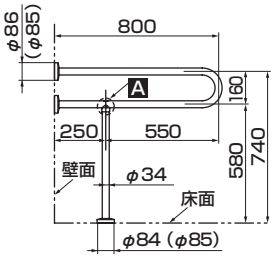
樹脂被覆
T112CD6

ステンレス
T113BD6

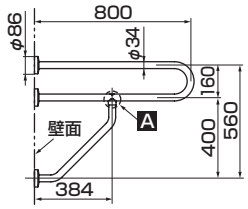


壁掛洗面器用

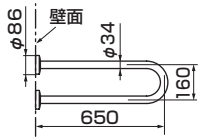
樹脂被覆	ステンレス
T112CP3	T113BP3



樹脂被覆
T112CP8

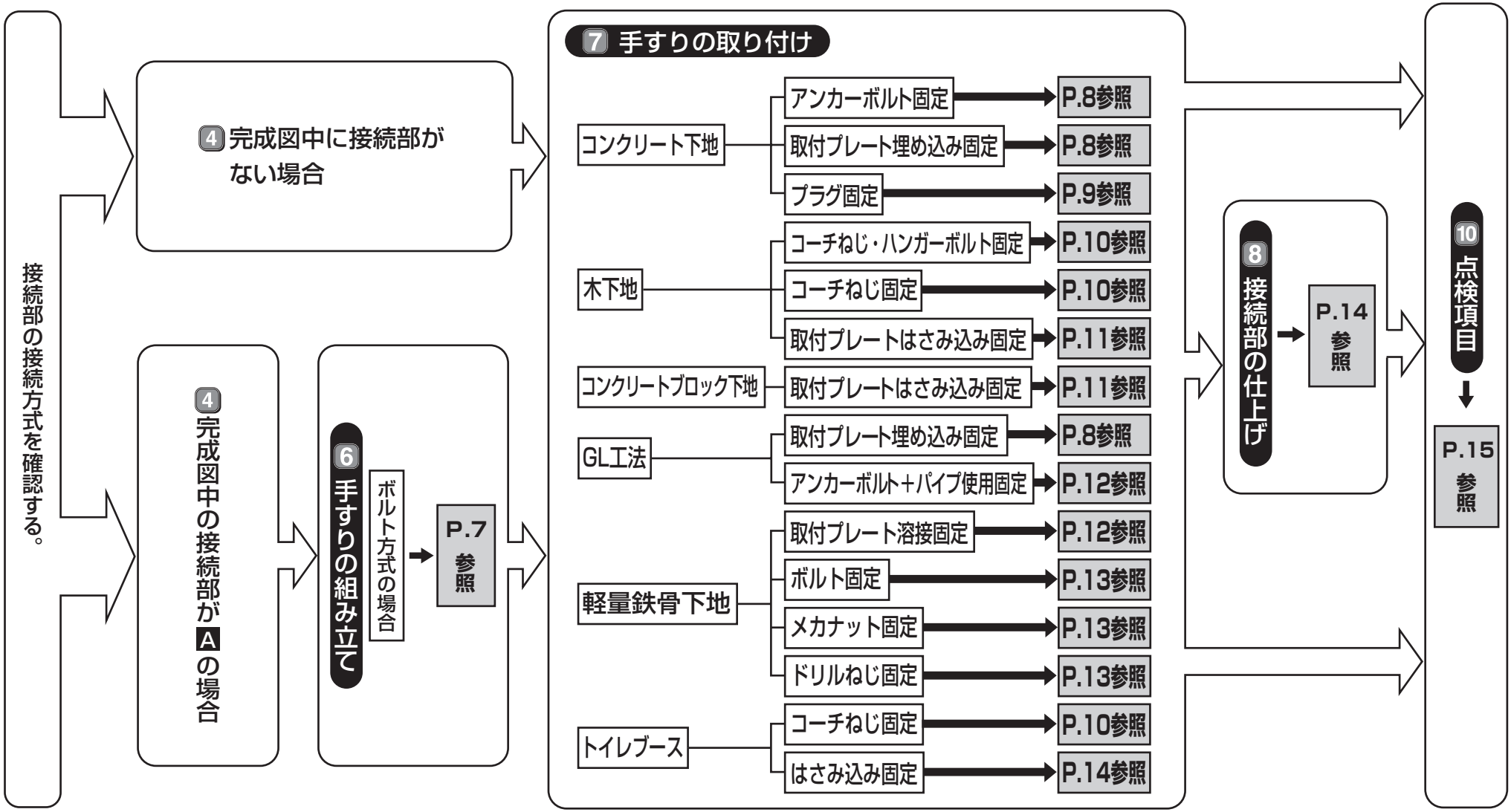


樹脂被覆
T112CP11



5 施工の流れ

●T112CP1・CP2・CP3・CP8・CU2およびT113BP1・BP2・BP3は、所定の形状に仮締めにして組み立て、取り付けたあと、本締めをしてください。
●ねじ・ボルト類が梱包箱に入っていることを確認してください。



6 手すりの組み立て

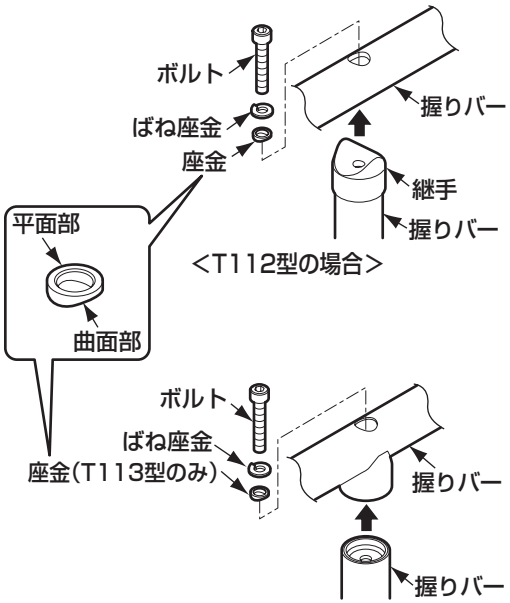
ボルト方式の場合

[4完成図のAの場合]

右図の順序のように、ばね座金、座金にボルトを通して、六角スパナにて握りバー同士を仮締めする。

注 意

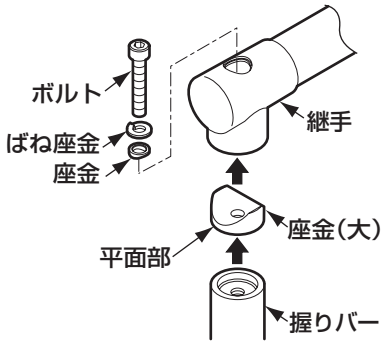
- **座金には平面部と曲面部がありますので、平面部をばね座金側としてください。**
  座金を逆に取り付けると、手すりにゆるみが発生する場合があります。(T112CU2の場合は座金は使用しません)
- **手すりを取り付ける前に本締めを行わないでください。**
  本締めをしたあとに手すりを取り付けると、手すりが取り付かない場合があります。



[T112型、T113型の特注品・イージーオーダー品の場合]

①継手に座金(大)、握りバーの順序で押し込む。
※座金(大)は平面部が握りバーと接するように取り付けてください。

②ボルトの取り付けは「4完成図中のA部」と同じ要領にて取り付ける。

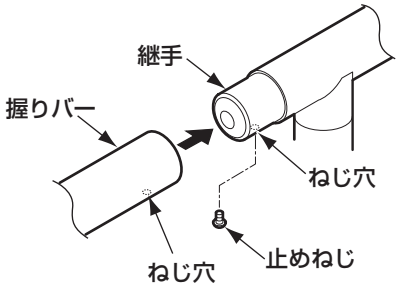


止めねじ方式の場合

[T112型、T113型の特注品・イージーオーダー品の場合]

①継手のねじ穴に握りバーのねじ穴が合うように握りバーを押し込む。

②六角スパナにて止めねじをしっかり止める。



7-1 手すりの取り付け

コンクリート下地：アンカーボルト固定の場合

固定金具品番	T110D3R

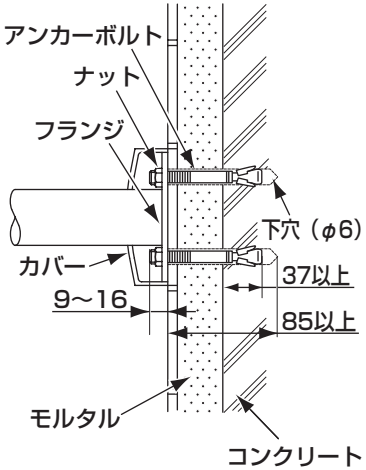
①心出しをしたあと、φ6mm、深さ85mmのアンカーボルトの下穴をあける。注1

②ナットをアンカーボルト上端より2mm程度ねじ込み、下穴に軽く打ち込む。注2

③アンカーボルトのナットを締め付ける。
（これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります）

④ナットを外し、フランジの取付穴にアンカーボルトを通し、ナットで締め付ける。
アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整してください。

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



注 意

注1：コンクリートにφ6mm、深さ85mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

注2：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。37mm未満では手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

コンクリート下地・ＧＬ工法：取付プレート埋め込み固定の場合

固定金具品番	T110D11、12、42

①心出しをしたあと、φ6mm、深さ50mm以上のアンカーボルトの下穴をあける。注1・2

②ナットをアンカーボルト上端より2mm程度ねじ込み、取付プレートの取付穴に通し、下穴に軽く打ち込む。注3

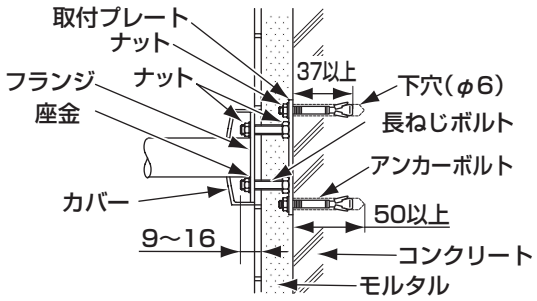
③アンカーボルトのナットを締め付ける。

④取付プレートのボルト穴に、長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。注4

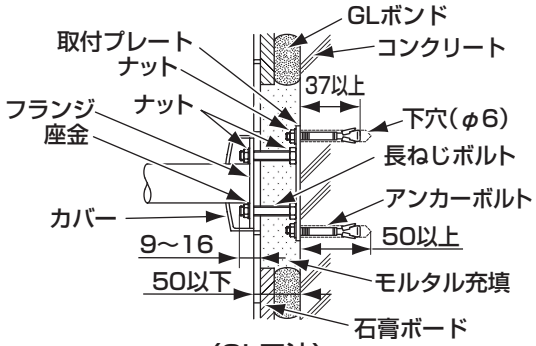
⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整する。

⑥フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。

⑦カバーを仕上げ面に押し付ける。



〈コンクリート下地〉



〈GL工法〉

注 意

注1：コンクリートにφ6mm、深さ50mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。
ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。

注2：取付プレートの取付位置は、手すり現物であわせるか、フランジ間の寸法±1mmで固定してください。左記寸法から外れると、手すりがガタついたり、取り付けできないことがあります。

注3：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。37mm未満では手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

注4：ボルトの長さが短い場合は、M6長ねじボルトを現場調達してください。

裏面へつづく

コンクリート下地：プラグ固定の場合

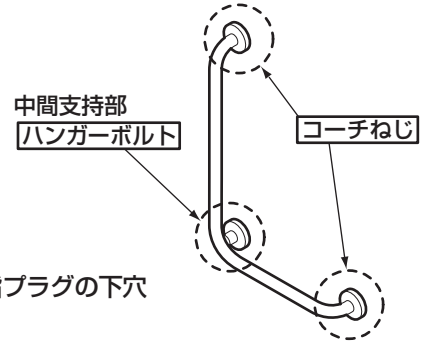
固定金具品番	T110D16、T110D26、T110D34

注 意

プラグ固定の場合は、多用途用手すりI型、多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型前出寸法120mm、浴室入り隅用手すりL型のみ取り付け可能です。

多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型前出寸法120mm、浴室入り隅用手すりL型の中間支持部には、施工が簡単なハンガーボルトを使用します。

多用途用手すりI型は、ハンガーボルトを使用しませんので、施工手順は①②⑧⑩となります。



①心出しをしたあと、φ8mm、深さ60mmの樹脂プラグの下穴をあける。注1

②樹脂プラグを下穴に軽く打ち込む。

③ハンガーボルトに同梱のナット(2個)をダブルナットで固定する(下図参照)。

ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを逆回しして締め付け、固定する。

④③で固定したダブルナットを工具で回し、手すりの中間支持部の樹脂プラグにハンガーボルトをねじ込む。

⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が9～16mmの範囲になるように調整する。

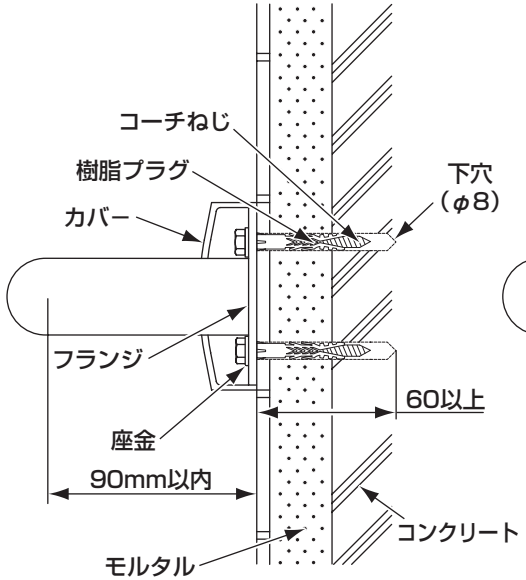
⑥ダブルナットを取り外す。

⑦手すり中間支持部のフランジの取付穴にハンガーボルトを通し、座金、ナットで仮締めする。

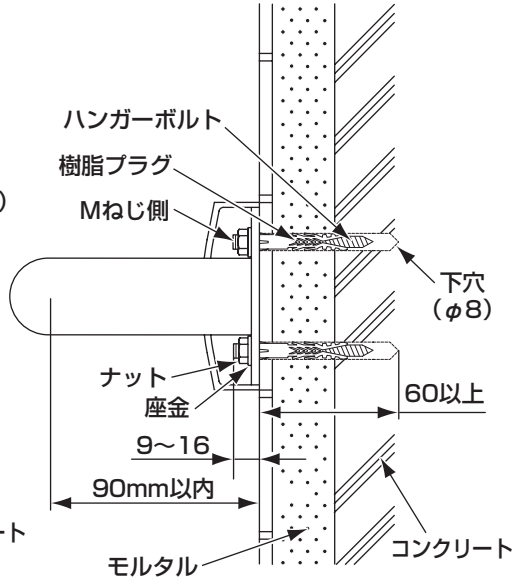
⑧コーチねじに座金を通し、フランジの取付穴より取り付ける。

⑨ハンガーボルトを仮締めしているナットを本締めする。

⑩カバーを仕上げ面に押し付ける。



〈コーチねじ部分〉



〈ハンガーボルト部分〉

注 意

注1：コンクリートにφ8mm、深さ60mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

木下地・トイレブース：コーチねじ・ハンガーボルト固定の場合

固定金具品番	木下地　　：T110D15、T110D16、T110D34 トイレブース：T110D23、T110D35

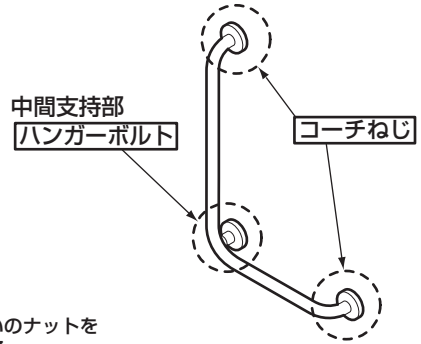
多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型、前出寸法120mmの中間支持部には、施工が簡単なハンガーボルトを使用します。

多用途用手すりI型は、ハンガーボルトを使用しませんので、施工手順は①②⑧⑩となります。

①事前に手すり取付部に補強木を取り付ける。
注1

②心出ししたあと、φ4mmのコーチねじとハンガーボルトの下穴をあける。
（タイルの場合は、タイル部のみφ6.5mmの通し穴をあける）

③ハンガーボルトに同梱のナット（2個）をダブルナットで固定する（下図参照）。



ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを逆回しして締め付け、固定する。

④③で固定したダブルナットを工具で回し、手すりの中間支持部の下穴にハンガーボルトをねじ込む。

⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が9～16mmの範囲になるように調整する。

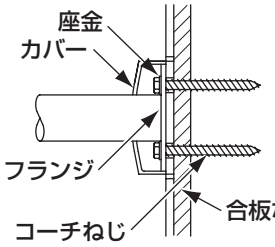
⑥ダブルナットを取り外す。

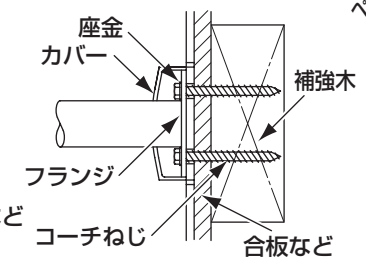
⑦手すり中間支持部のフランジの取付穴にハンガーボルトを通し、座金、ナットで仮締めする。

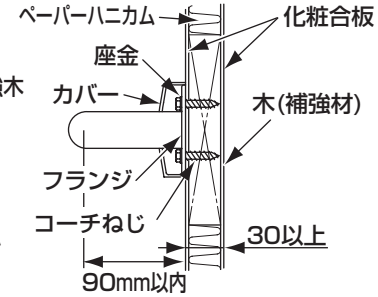
⑧座金にコーチねじを通し、フランジの取付穴より取り付ける。

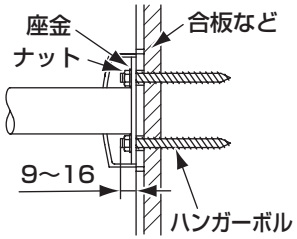
⑨ハンガーボルトの仮締めしているナットを本締めする。

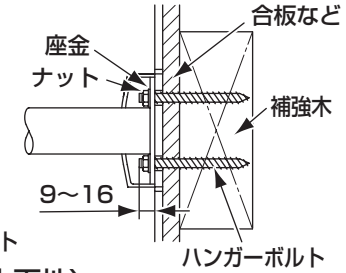
⑩カバーを仕上げ面に押し付ける。



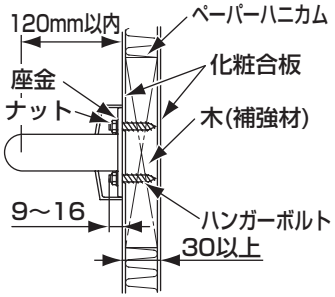








〈木下地〉



〈トイレブース〉

注 意

注1：補強木の厚みは、手すりの種類により異なります。手すりに応じた補強を行ってください。

下表に適合した厚みの合板または補強木を強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。補強木を取り付けないと、手すりがガタついたり、外れたりすることがあります。

対象商品	合板または補強木の厚み
● パブリック用手すり ・多用途用手すり　I型 ・多用途用手すり　L型 ・腰掛便器用手すり　L型（T112CL10、T113BL10）	12mm以上 ※構造用合板（JAS規格品）、または同等に上の下地材に取り付けてください。
● パブリック用手すり ・腰掛便器用手すり　L型（T112CL10、T113BL10は除く） ・浴室洗い場用手すり　I型	30mm以上
● パブリック用手すり ・腰掛便器用手すり　P型 ・和風便器用手すり ・小便器用手すり ・壁掛洗面器用手すり	60mm以上

木下地：取付プレートはさみ込み固定の場合

固定金具品番	T110D11、12、43

①事前に手すり取付部に厚さ45～60mmの補強木を取り付ける。注1

②心出しをしたあと、φ8mmのボルトの通し穴をあける。

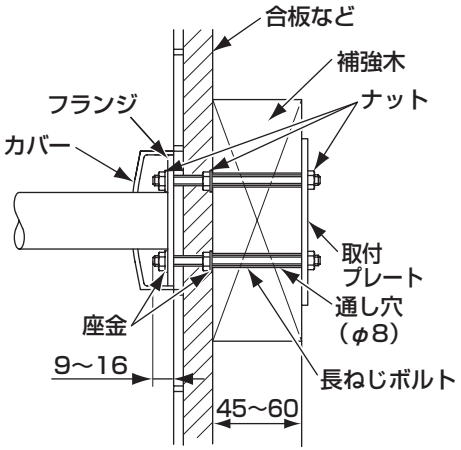
③取付プレートのボルト穴に長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。

④長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁裏側に取付プレートを当て、手すり取付側より座金、ナットで締め付ける。

⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整する。注2・5

⑥フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。注3・4

⑦カバーを仕上げ面に押し付ける。



注 意

注1：厚さ45～60mmの補強木を強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。補強木を取り付けないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より規定の範囲となるように調整してください。規定の範囲から外れると、カバーまたは手すりが取り付けできないことがあります。

注3：長ねじボルトの穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

注4：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

注5：ボルトの長さが短い場合は、M6長ねじボルトを現場調達してください。

コンクリートブロック下地：取付プレートはさみ込み固定の場合

固定金具品番	T110D11、12、43

①心出しをしたあと、取付プレートの取付穴に合わせ、φ8mmの長ねじボルトの通し穴をあける。注1

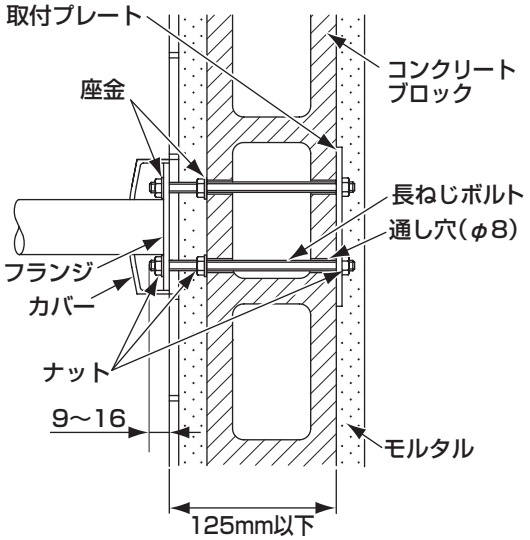
②取付プレートのボルト穴に長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。

③長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁裏側に取付プレートを当て、手すり取付側より座金、ナットで締め付ける。

④壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整する。注2・5

⑤フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。注3・4

⑥カバーを仕上げ面に押し付ける。



注 意

注1：空洞部をモルタルなどで埋める必要はありません。

注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より規定の範囲となるように調整してください。規定の範囲から外れると、カバーまたは手すりが取り付けできないことがあります。

注3：長ねじボルトの穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

注4：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

注5：ボルトの長さが短い場合は、M6長ねじボルトを現場調達してください。

ＧＬ工法：アンカーボルト＋パイプ使用固定の場合

固定金具品番	T110D18R	現場調達部品	φ13.8(t2)金属製パイプ

①心出しをしたあと、φ6mm、壁仕上げ面よりの深さ105mmのアンカーボルトの下穴をあける。注1

②石こうボードの部分のみφ14mmの金属製パイプの通し穴をあける。

③金属製パイプをコンクリート下地面に当たるまで挿入し、壁仕上げ面より0.5mm程度凸になるようにカットする。
※長さが足りない場合は、座金などを差し込んで調整してください。

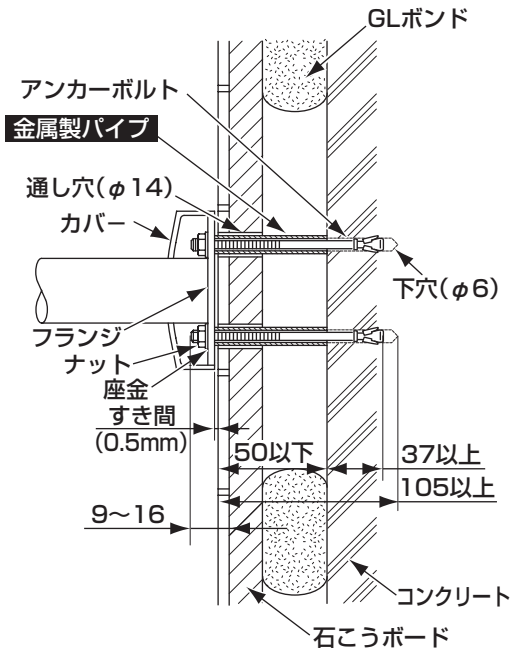
④ナットをアンカーボルトより2mm程度ねじ込み、金属製パイプに通し、下穴に軽く打ち込む。注2

⑤アンカーボルトのナットを締め付ける。
（これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります）

⑥ナットを外し、フランジの取付穴にアンカーボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整してください。

⑦カバーを仕上げ面に押し付ける。

・■ 白ヌキ文字は現場調達部品



注 意

注1：コンクリートにφ6mm、深さ105mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。
ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

注2：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。37mm未満では手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

軽量鉄骨下地：取付プレート溶接固定の場合

固定金具品番	T110D11、12、41

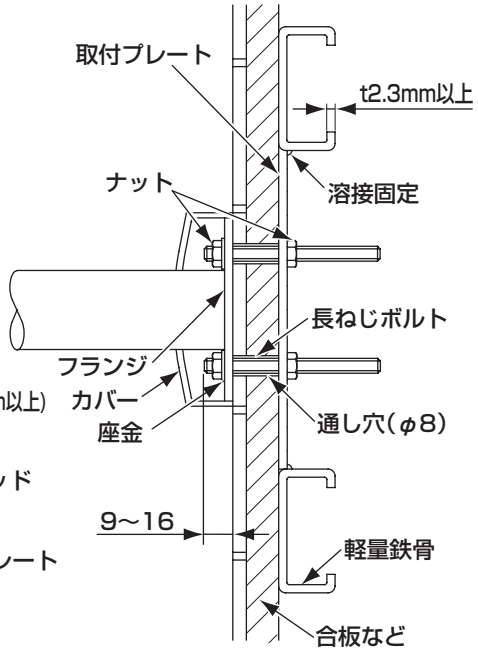
①心出しをしながら取付プレートを補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)に溶接固定する。注1

②取付プレートの穴に長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整し、壁裏面よりナットで締め付ける。注2

③壁を仕上げる。

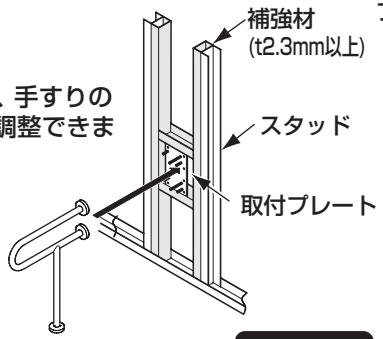
④フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。注3・4

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



〈取付方法〉

※壁仕上げ後、手すりの取付位置は調整できません。



注 意

注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より規定の範囲となるように調整してください。規定の範囲から外れると、カバーまたは手すりが取り付けできないことがあります。

注3：長ねじボルトの穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

注4：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

軽量鉄骨下地：ドリルねじ固定の場合

固定金具品番	T110D36、T110D37、T110D45

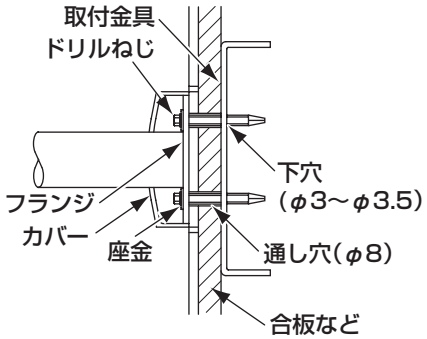
①手すり取付位置を考慮し、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。注1

②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、φ3～3.5mmドリルで下穴をあける。注2

③仕上げ壁部にφ8mm程度のドリルねじの通し穴をあける。

④座金、フランジの取付穴にドリルねじを通し、手すりを固定する。注3・4

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



軽量鉄骨下地：メカナット固定の場合

固定金具品番	T110D36、T110D37、T110D46

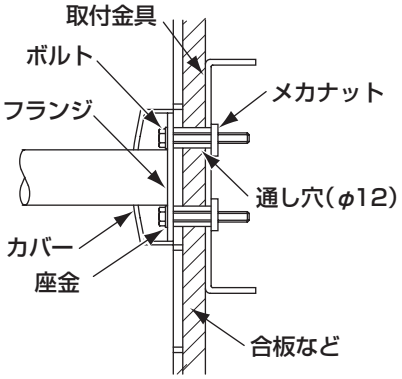
①手すり取付位置を考慮し、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。注1

②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、メカナットの通し穴φ12mmをあける。

③メカナットを穴に挿入し、セットする。

④座金、フランジの取付穴にボルトを通し、手すりを固定する。注3・4

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



軽量鉄骨下地：ボルト固定の場合

固定金具品番	T110D36、T110D37、T110D44

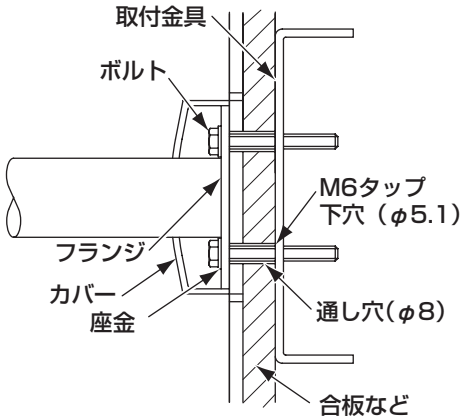
①手すり取付位置を考慮し、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。注1

②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、M6タップ加工の下穴φ5.1をあける。
仕上げ壁部にφ8mm程度の通し穴をあける。

③軽量鉄骨用取付金具にM6タップ加工を行う。

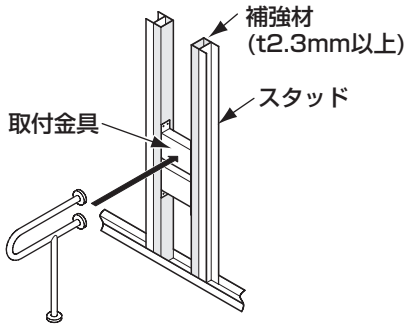
④座金、フランジの取付穴にボルトを通し、手すりを固定する。注3・4

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



〈取付方法〉

※壁仕上げ後、取付金具の範囲内で手すりの取付位置が調整できます。



注 意

**注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
手すりが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。**

注2：手すりに傷を入れないために、下穴をあけた方が施工がスムーズです。

注3：長ねじボルトの穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

注4：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

7-7

トイレブース：はさみ込み固定の場合

固定金具品番	T110D22R

注 意

トイレブースは厚み40mmペーパーハニカム、メラミンおよびポリエステル合板仕様相当の場合、多用途用手すりI型、多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型前出寸法120mmのみ取り付け可能です。

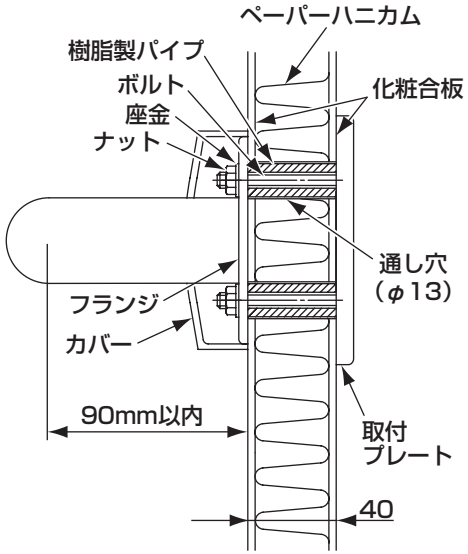
①心出しをしたあと、φ13mmのパイプの通し穴をあける。

②樹脂製パイプを通し穴に挿入する。注1

③取付プレートの外側のボルト穴に接着剤を塗布し、長ねじボルトを最後までねじ込み、ブース裏側より樹脂製パイプの穴に差し込みながらあてる。
※取付プレートには外側と内側に4カ所ずつボルト穴があります。ボルト穴を確認して取り付けてください。

④フランジの取付穴にボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。注2

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



注 意

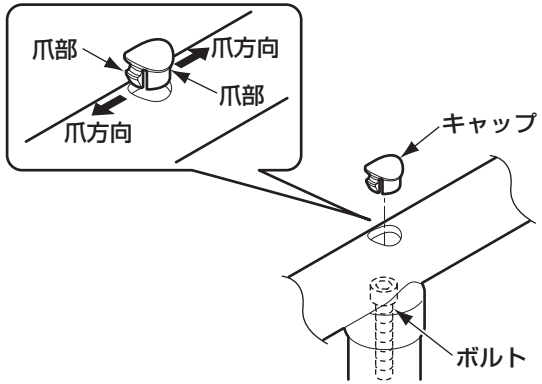
注1：多用途用手すりI型、多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型前出寸法120mmは、トイレブースに補強木を入れた場合、固定金具に同梱のパイプは使用せずに取り付けできます。

注2：長ねじボルトの穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

※他の施工方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

8 接続部の仕上げ（ボルト方式の場合）

①手すりを取り付けたあと、ボルトを六角スパナにて本締めする。
②キャップを取り付ける。



注 意

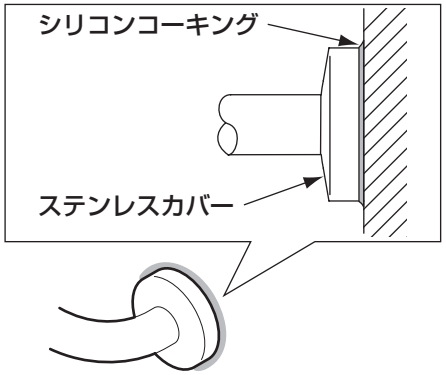
キャップには方向性がありますので、爪が握りバーの軸方向になるように取り付けてください。

9 カバー部のコーキング

T113型のステンレスカバーの場合

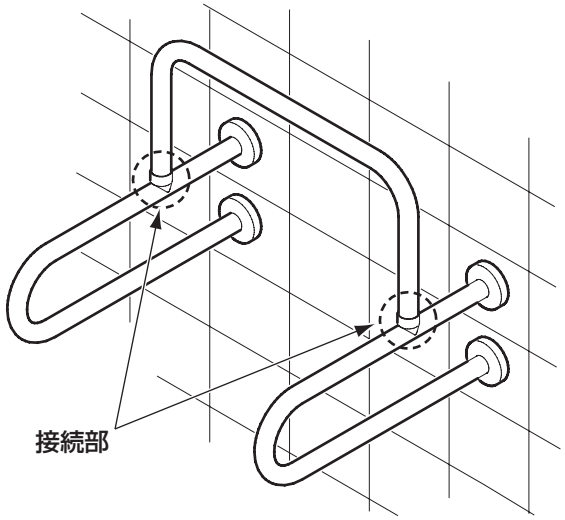
注 意

ステンレスカバーを取り付けたあと、カバーの外れを防止するため、必ずカバーと壁仕上げ面とのすき間をシリコンコーキングしてください。



10 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



ガタツキの確認

手すりにガタツキがないか確認してください。

接続部はしっかり組み立てていますか？

→ 6「手すりの組み立て」参照

→ 8「接続部の仕上げ」参照

手すりは壁にしっかり取り付けていますか？

→ 7「手すりの取り付け」参照

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

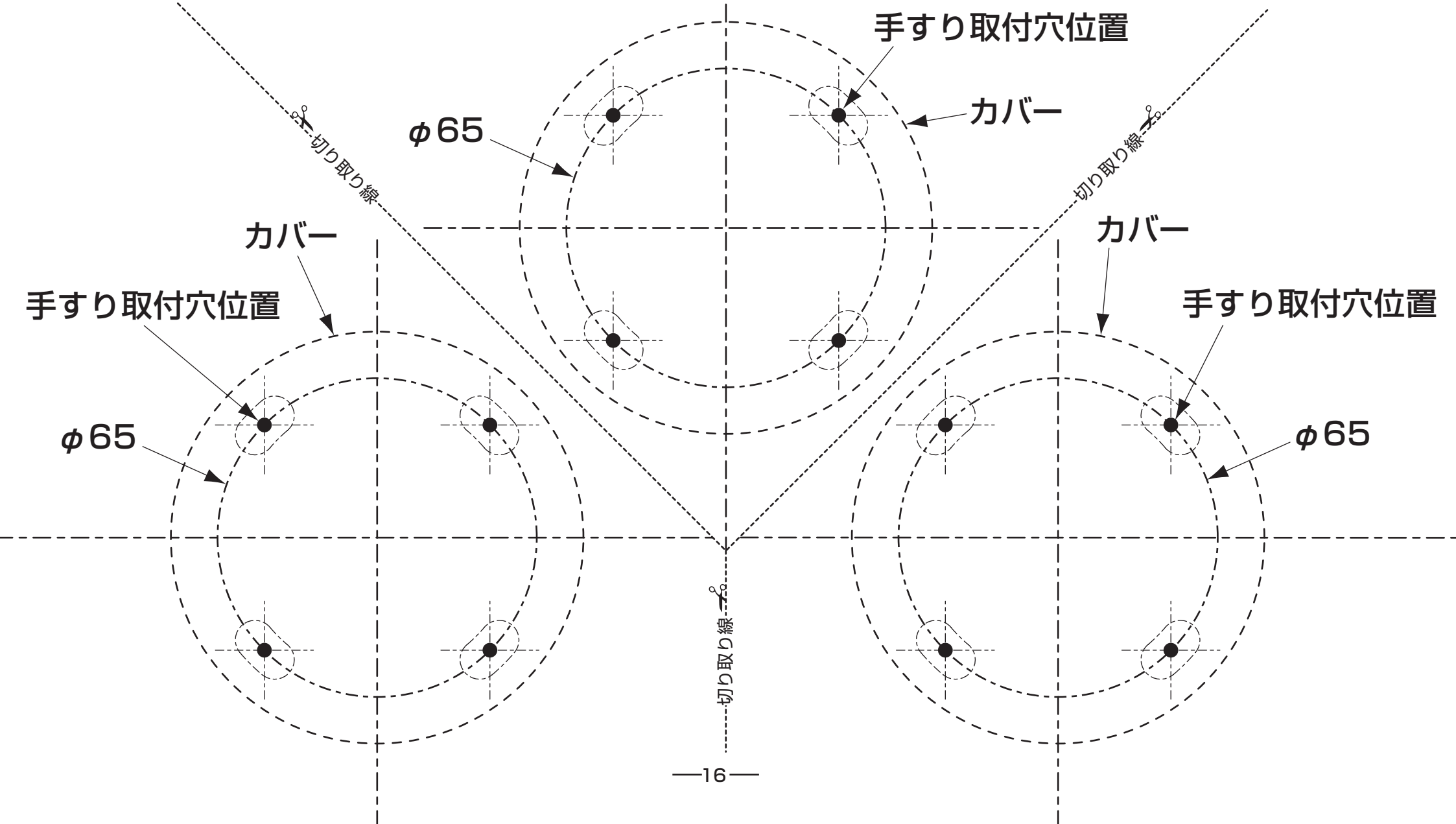
下穴ガイド

※壁固定部数に応じて切り取ってご利用ください。

使用上のご注意

必ず製品の下穴位置とガイドの手すり取付穴位置が合うことをご確認頂き、下穴加工を実施ください。

⚠ 注　意

必ず実行

コピーしてご利用される際は、印刷機によって表示内容の大きさが変わることがありますので、寸法確認の上、ご使用ください。